

# 第 33 回全国公民館セミナー (YouTube オンデマンド開催)

昨年に引き続き、コロナ禍で収録開催となった配信動画です。  
いつでも YouTube でご覧になれます。

## 《概要》

テーマ: これからの公民館-アフターコロナの公民館-

主催: 公益社団法人全国公民館連合会

公開: YouTube で 令和 4 年 3 月 7 日 から順次公開予定



※右記のリンク先からご覧ください。  
資料は PDF で公開しています。

動画はこちら

<https://www.kominkan.or.jp/02info01.html#semi33th>

## 《プログラム①～⑪》

### ・講演

### ① 誰しものが、特別な物語を生きるために 市民参加型映画と様々な学びのエッジ(境界線)から

(栗山宗大／脚本家)

日本初の「市民参加型映画」の実践者として、また脚本家として長年に渡り、日本の地域社会を見つめてきた栗山宗大さんとともに、AC 時代(アフターコロナ)に求められる学びの物語を探究・対話します。

地域住民の物語を紡ぐことの意味、映画共創の現場で垣間見た地域の葛藤などを映像とともにふりかえり、また栗山氏の親交のある様々な学びの実践者(社会教育・探究教育・キャリア教育・福祉実践者)から、アフターコロナの新しい「学び」の可能性について考察します。

### ～講師紹介～

#### ■栗山宗大(くりやまむねひろ)脚本家

映画監督・林弘樹らと設立した FireWorks は、日本初となる「市民参加型映画事業」のモデルをデザインし、日経地域情報化大賞 MJ 賞や地域づくり総務大臣表彰を受賞。自治体・企業のコンテンツプラン、映像による人材育成プログラム、市民向け映画ワークショップ事業などを独自の物語論によって構築。岐阜県恵那市で「市民総参加」によって制作された映画「ふるさとがえり」が、全国各地で上映されつづけている。

## ・講演

## ② 文部科学省の公民館をめぐる動き (根本幸枝／文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官)

公民館施策の最新の動向について、文部科学省総合教育政策局の社会教育振興総括官の根本幸枝さんにお話いただきます。

## ～講師紹介～

### ■根本幸枝(ねもとこうえ)文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官

福島県出身。昭和 63 年 3 月に文部省へ入省。福島大学会計課長、生涯学習局男女共同参画学習課女性政策調整官、生涯学習推進課民間教育事業振興室長、(独)国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部長、九州大学総務部長、徳島大学理事・副学長・事務局長、総合教育政策局生涯学習推進課長、地域学習推進課長などを歴任し、令和 3 年 10 月より現職。

## ・講演

## ③ 公民館の空間をデザインする (浅野平八／日本大学生産学部建築工学科元教授)

公民館にはロビーや、ホールなどさまざまな部屋や空間があります。建築学的な見地から、公民館の持つさまざまな部屋、空間が持つ意味、そして公民館が果たしている役割から、どのような空間が望ましいかなどについて語ります。

## ～講師紹介～

### ■浅野平八(あさのへいはち)日本大学生産学部建築工学科元教授

1945 年生まれ。日本大学大学院を経て工学博士。日本公民館学会副会長。『公民館のデザイン』(エイデル研究所刊)編集委員長。小金井市・会津美里町・近江八幡市・由布市の公民館複合施設建設にかかわる。専門は建築計画で、特に公民館建築に関する多くの原著論文や著書があるほか、住宅産業研修財団にて「大工育成塾」企画運営委員、また伝統木造建築の技術・技能の次世代を担う人材の育成を目的とした「大工志塾」塾長を務める。『月刊公民館』『公民館のデザイン』特集(平成26年12月号)にも執筆。

## ・講演

## ④ “アフターコロナ”“ウィズコロナ”時代の社会教育 (小山竜司／神奈川大学法学部特任教授)

“アフターコロナ”“ウィズコロナ”時代に社会教育、そして公民館のありかたはどうなっていくのか、考えます。

## ～講師紹介～

### ■小山竜司(こやまりゅうじ)神奈川大学法学部特任教授

1989 年文部省に入省。31 年間の公務員生活の後に 2020 年文部科学省を早期退職。現在は神奈川大学法学部特任教授。また、桜美林大学や名古屋大学でも、講義を担当。「全体の奉仕者」から一私人となって「自由の翼」を満喫中!?

『月刊公民館』では、2016 年 4 月号から 2019 年 3 月号まで「社会教育、温故知新！」を 36 回連載。2019 年 7 月号からは「令和の新・生涯学習考」を連載中。専門は教育行政学、教育法、高等教育政策論。

## ・講演(事例発表)

## ⑤ コロナ禍での公民館の今とこれから

(宮尾有／熊本市花園公民館社会教育主事)

## ～講師紹介～

## ■ 宮尾有(みやおゆう)熊本市花園公民館社会教育主事

1968 年熊本県生まれ。熊本大学教育学部卒業、福岡教育大学大学院修了。美術教育を専攻。2001 年熊本県に中学校美術教諭として採用される。その後、異動により平成 27 年から社会教育主事として熊本市立秋津公民館に出向。社会教育を担当。

平成 28 年熊本地震の折、公民館が拠点避難所となり、約 4 か月間、避難所の運営に携わった。その時の経験が社会教育の学び直しとなり、「生きる」ことは「学ぶ」ことということ強く意識するようになった。現在は、熊本市花園公民館で「花園 Voisins(ヴォワザン)プロジェクト」など、「コロナ禍でも学びを止めない」を合言葉に「つなぐ」、「まなぶ」、「むすぶ」を大事にする取り組みに励んでいる。

## ・講演(事例発表)

## ⑥ 地域コミュニティの原点は楽しい時間を共有すること

(野嶋京登／浜松市富塚協働センター主任)

## ～講師紹介～

## ■ 野嶋京登(のじまきょうと)浜松市富塚協働センター主任

1985 年浜松市生まれ。大学卒業後、化粧品メーカー営業職を経て、浜松市役所へ入庁。税務・企画政策に従事後、富塚協働センターへ人事異動。

特色ある事業として、地域住民とともに浜松版パーラー公民館「あおぞら協働センター」を開催し、幅広い世代間交流の提供や顔の見える関係づくりの一翼を担っている。また、夏祭りを地域住民とともに新たな形で復活させ、以前の 5 倍以上来場者が訪れるイベントとなった。そのほか、ごみ拾いボランティアの活動に感銘を受け、ごみ・環境・SDGsを考える「ごみゼロフェスタ」を初めて開催。若者の地域づくりへの視点が重要と考え、若者ボランティア「コミュニティ・アシスタント」制度を確立し、各種事業を協働で進めている。「親切・丁寧・笑顔」で地域に寄り添い、親しみやすい職員を心がけている。地域コミュニティの原点は、楽しい時間をみんなで共有すること！！

## ・講演(事例発表)

## ⑦ 「リモート」×「社会教育」の可能性

(熱田有紀／広島市中央公民館社会教育主事)

## ～講師紹介～

## ■ 熱田有紀(あつたあき)広島市中央公民館社会教育主事

平成元年に広島市の外郭団体に採用され、広島市青少年センターや勤労青少年ホームなどの若者の施設を経て、公民館に配属される。

令和2年コロナ感染者が増えるたびに、公民館の利用が制限され主催事業の中止が余儀なくされた。そんな中で「何かしなければ…」「どうしたらできるのか」「オンラインでやってみる？」と広島市公民館職員有志と、リモート公民館ひろしま(通称:リモコひろしま)を立ち上げた。手探りの中、広島市内の複数の公民館や市民グループと連携して様々なオンライン事業を企画・実践する中で、ウイズコロナ・アフターコロナでの新しい公民館事業の在り方として活用できるリモート事業にチャレンジしている。

## ・講演(事例発表)

## ⑧ Co-Minkan まちの茶の間をつくる

(出野紀子／コミュニティ・デザイナー)

## ～講師紹介～

## ■出野紀子(でのりこ)コミュニティ・デザイナー

東京都出身。2001年より英国ロンドンへ渡り、テレビ番組制作の仕事に携わる。2011年に studio-L 参画した後は、島根県海士町の自主運営テレビ局「あま・コミュニティ・チャンネル」で放送局の運営に携わり、住民による番組づくりをサポート。近年では、秋田市で高齢者の実態を調査し内容を展覧会「2240 歳スタイル」で紹介し、年の差がある友人をつくり健康長寿と地域福祉の充実を目指す「年の差フレンズ部」をつくった。2017年に、Co-Minkan 普及実行委員会を3名で立ち上げ、全国に「つどう・まなぶ・むすぶ」ことができる私設公民館を普及している。コロナ禍になってからは、藤沢市で家にいながら友人をつくる「ステイホームダイアリー」をつくり、実践している。

## ・シンポジウム

《C》コーディネーター、《P》パネリスト

## ⑨ これからの公民館運営を考える

(《C》小山竜司、《P》宮尾有、野嶋京登、熱田有紀、出野紀子)

コロナ禍にあって、各地の公民館ではどのように対応し、どのような工夫をしてコロナに立ち向かったのか、コーディネーターの小山竜司さんとともに現場を担う職員のみなさんと熱く語っていただきます。

## ・講演

## ⑩ ナトコ映画“公民館”がおもしろい！

(長澤成次／放送大学千葉学習センター所長)

1950年につくられたナトコ映画「公民館」など、古い公民館を描いた映画をとおして、当時の人々の公民館に込められた思いや原点について、語ります。

## ～講師紹介～

## ■長澤成次(ながさわせいじ)放送大学千葉学習センター所長

1951年生まれ。千葉大学教育学部・名古屋大学大学院教育学研究科博士課程を経て千葉大学教育学部教授。日本社会教育学会会長、「月刊社会教育」編集長などを歴任。千葉大学名誉教授、放送大学千葉学習センター所長。専門は社会教育論。

## ・講演

## ⑪ 公務員として公民館職員がイキイキ働くための作法

(堤直規／キャリアコンサルタント、小金井市福祉保健部新型コロナウイルス感染症対策担当課長)

公民館職員は公務員。正職でも臨時でも嘱託であっても、住民にとっては公務員には変わりありません。公務員としてどういう働き方が求められるか、公務員のこれからの働き方、イキイキ働くために必要なことなどについて、お話をうかがいます。

～講師紹介～

■堤直規(つつみなおただ)

キャリアコンサルタント、小金井市福祉保健部新型コロナウイルス感染症対策担当課長

1971 年生まれ。東京学芸大学教育学部卒業、同大学院社会教育専攻修了。2001 年小金井市入所。前職はIT関係。情報システム係、国保税徴収担当、企画政策係長、納税課長、行政経営担当課長を経て、2021 年 10/1 から現職。2018 年にキャリアコンサルタントとして登録。

主な著書に『公務員1年目の教科書』、『公務員ホンネの仕事術』、『公務員の「異動」の教科書』、『公務員の「出世」の作法』などがある。その他、さまざまな雑誌などにも連載・執筆多数。

**【第33回全国公民館セミナー事務局】**

公益社団法人全国公民館連合会事務局次長村上英己

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-16-8 飯島ビル 3 階

電話:03-3501-9666 FAX:03-3501-3481 メール:murakami@kominkan.or.jp